

# 人間社会研究科

募集人数

修士課程 人間社会専攻：7名

## 研究科の概要

「社会・教育」と「ビジネス」の2つの観点から研究に取り組みます。

## 人間社会専攻

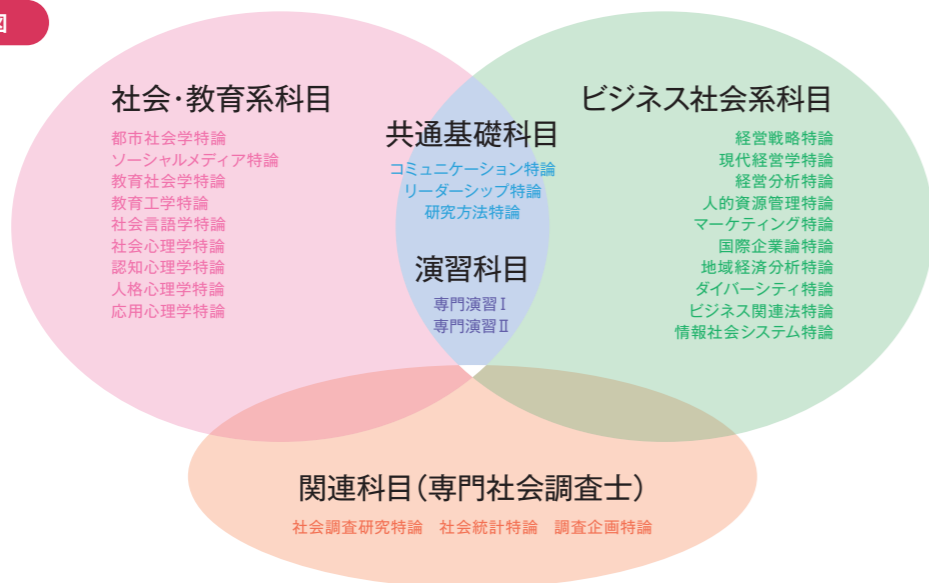
[ 修士課程 ]

人間社会研究科は、わたしたちを取り巻く現実社会における今日的な諸問題を、人間と社会の学際的な研究を通じて総合的・体系的に理解し、高度な専門的知識・能力を駆使して、これらの問題を解決していく組織のリーダー的人材を育成します。

カリキュラムは、「社会・教育系専門科目」と

「ビジネス社会系専門科目」の2つの専門科目群を核に、共通基礎科目、関連科目、演習科目から構成されており、自分の関心や進路、専門分野に応じた履修が可能となっています。また、関連科目を履修することにより、「専門社会調査士」の資格を取得することができます。

## 研究領域の概念図



## 養成する人材像

産業社会の高度化・複雑化、経営の効率化、グローバル化の進行。いま、私たちの社会では、あらゆる場面で高度な専門的知識と技能が求められるようになりました。さらに、インターネットを基盤とする情報の高度化や技術革新への対応には、問題を適切に解決に導く能力と柔軟な応用力、発想力が求められています。このような現代社会において、企業、地域社会、自治体、教育現場等でリーダーシップを発揮できる「高度な専門的知識と技能を兼ね備えた人材」を育成します。

### 主に社会・教育系を学ぶ履修モデル

民間・自治体・企業の教育・文化事業に貢献できる人材

心理学、社会学、教育学、経営学などの専門的知識を身につけ、自治体や民間法人、NPO法人、地域組織・団体などにおいて、教育・文化事業や社会貢献活動、地域活性化活動などをマネジメントできる人材を育成します。

### 主にビジネス社会系を学ぶ履修モデル

企業・官公庁などの中堅幹部、マネジャー、高度専門職業人

会計・人事・マーケティングなどの経営学や経済学、法律学などの専門的知識とリーダーシップ能力を身につけ、企業の人事・総務/経理・営業部門や官公庁・病院などにおける中堅幹部・マネジャー、さらにはシンクタンクやコンサルティング会社などでプロフェッショナルとして活躍できる人材を育成します。

### 専門社会調査士の資格取得

高度な調査能力を身につけた専門社会調査士

専門社会調査士は一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査に関する資格です。高度な調査能力を身につけている社会調査士として認定されます。本研究科では、この資格を取得申請するための3つの科目のすべてが認定されています。

## 専任教員プロフィール

### 粟津 俊二

専門分野：認知科学  
最近の研究テーマ等：言葉の理解に関する認知過程・脳内過程の解明と教育への応用

### 井上 綾野

専門分野：消費者行動論  
最近の研究テーマ等：倫理的消費と消費者政策

### 角本 伸晃

専門分野：地域経済学、観光経済学、都市経済学  
最近の研究テーマ等：観光による地域活性化の経済分析

### 駒谷 真美

専門分野：メディア情報リテラシー、メディア社会心理学、ICT教育  
最近の研究テーマ等：乳児期から老年期までの「メディア情報リテラシー生涯発達理論」の構築と実践研究

### 標葉 靖子

専門分野：科学技術社会論、科学コミュニケーション論  
最近の研究テーマ等：「科学技術と社会」をめぐる科学技術イノベーション・人材育成政策研究、科学コミュニケーション・対話デザイン実践研究

### 篠崎 香織

専門分野：経営学(戦略論、組織論)  
最近の研究テーマ等：イノベーション・マネジメント、M&A

### 蔣 飛鴻

専門分野：会計学  
最近の研究テーマ等：会計情報の有用性

### 高木 裕子

専門分野：コミュニケーション学、教育学、情報科学  
最近の研究テーマ等：学習環境デザイン研究、学習支援システムの構築と実証的フィードバック研究

### 竹内 光悦

専門分野：統計科学  
最近の研究テーマ等：量的・質的データに基づく行動計量分析、統計教育のカリキュラム研究およびその国際比較調査

### 竹内 美香

専門分野：健康心理学、発達心理学(パーソナリティ形成の問題を含む、青年期の心身の健康に関わる心理社会的要因)  
最近の研究テーマ等：幼少期の被養育経験と青年期以降の心身の健康、および気質と性格の形成、青年期の進路探索と自己効力感、レジリエンス、青年期の食行動

### 時田 朋子

専門分野：社会言語学  
最近の研究テーマ等：カナダの多言語状況、英語の定形表現

### 原田 謙

専門分野：都市社会学、社会老年学  
最近の研究テーマ等：社会的ネットワークと健康、持続可能なまちづくり、プロダクティブ・エイジング

### 広井 多鶴子

専門分野：教育社会学、家族社会学  
最近の研究テーマ等：現代の親子関係をめぐる諸問題と教育問題、親子関係制度の歴史

### 山根 純佳

専門分野：社会学、ジェンダー研究  
最近の研究テーマ等：ジェンダー理論、家事・ケア労働論、介護労働市場とジェンダー

### 吉田 雅彦

専門分野：経済政策、企業研究、国際経営  
最近の研究テーマ等：国際経営のための経営学、国際法、国際経済事情

## カリキュラム

### 共通基礎科目

科目名	単位数
コミュニケーション特論	必修2単位
リーダーシップ特論	必修2単位
研究方法特論	必修2単位

### 社会・教育系科目

科目名	単位数
都市社会学特論	選択2単位
ソーシャルメディア特論	選択2単位
教育社会学特論	選択2単位
教育工学特論	選択2単位
社会言語学特論	選択2単位
社会心理学特論	選択2単位
認知心理学特論	選択2単位
人格心理学特論	選択2単位
応用心理学特論	選択2単位

### 演習科目

科目名	単位数
専門演習Ⅰ	必修4単位
専門演習Ⅱ	必修4単位

### ビジネス社会系科目

科目名	単位数
現代経営学特論	選択2単位
経営戦略特論	選択2単位
経営分析特論	選択2単位
人的資源管理特論	選択2単位
マーケティング特論	選択2単位
国際企業論特論	選択2単位
地域経済分析特論	選択2単位
ダイバーシティ特論	選択2単位
ビジネス関連法特論	選択2単位
情報社会システム特論	選択2単位

### 関連科目(専門社会調査士)

科目名	単位数
社会調査研究特論	選択2単位
社会統計特論	選択2単位
調査企画特論	選択2単位

## 科目紹介 [一部抜粋]

## 共通基礎科目

## ■ コミュニケーション特論

今日、専門化・細分化している「コミュニケーション」を、あらためて現代社会が抱える諸問題を解決し、それに対処する能力をつけるための「コミュニケーション学」として捉え直す。

## ■ リーダーシップ特論

本講義では、リーダーシップに関する理論的変遷を踏まえ、最新のリーダーシップ理論を詳しく解説するとともに、リーダーシップの根源ともいうべきパワーとの関係性についても解説をする。さらに、リーダーシップ・スタイルやパワーの自己診断、ケース・スタディなどを通じて実践的な側面から、リーダーシップを効果的に学べるようにしていく。

## ■ 研究方法特論

社会科学分野の研究にはさまざまな方法がある。この授業では、社会学、教育学、心理学、経営学、経済学を専門とする教員が、それぞれの研究分野の代表的な研究方法についてオムニバスで講義する。

## 社会・教育系科目

## ■ 都市社会学特論

都市の空間・社会構造をとらえる理論を理解し、実証研究を進めるために必要な社会地区分析やネットワーク分析などの方法を身につける。さらに地域特性に応じた「まちづくり」の現状と構想について、自治体と住民の協働（パートナーシップ）の視点などから検討する。

## ■ ソーシャルメディア特論

ソーシャルメディアの発展・普及によって社会的コミュニケーションすなわち「社会関係資本」の在り方や「公共性」の現れがいかに変化していくかについて分析・考察する。

## ■ 教育社会学特論

この講義では、現代の家族や学校において注目を集めているさまざまな教育問題を取り上げ、その問題について実証的かつ歴史社会的に分析を行う。

## ■ 教育工学特論

教育工学は心理学やコミュニケーション学等の人間に関する学問分野を礎に、人文社会系と理工系が加わり、工学的発想の下、教育学的諸理論と方法論の応用が実証論と結びついたものである。情報基盤経済の今、その改革力と教育的役割は重要視されている。これを問題解決の方法や目標達成の学問と捉え、デザイン化していく。

## ■ 社会言語学特論

言語と社会は切り離すことができない関係にある。本講義は、言語使用者の属性や言語使用状況がどのような影響を言語使用に与えているかについて、具体的な事例を取り上げて多角的に考察する。

## ■ 社会心理学特論

情報社会において、メディアは様々な思惑でメッセージを伝えている。本授業では「世界でも影響力のある社会批評家」と言われるチョムスキーの理論を援用し、米国の最新Web教材を元にプロパガンダの分析法を学修することで、情報社会が抱える課題について思索していく。

## ■ 認知心理学特論

認知心理学は、ヒトが何かを見聞きし、判断し、記憶し、考える仕組みを扱う学問である。認知心理学の概念や考え方は、さまざまな分野に応用されており、人間に関する多くの学問の基盤ともなっている。この講義では、コミュニケーション場面を中心に、理解の仕組み、わかりやすい説明方法などについて考えていく。

## ビジネス社会系科目

## ■ 現代経営学特論

組織とそこで働く人に注目し、組織の目標達成に向けたマネジメントについて学習する。さまざまな理論についての理解を深めることを通じて、経営学の基礎的概念の習得および理論を実践につなげる力の養成を図る。

## ■ 経営戦略特論

企業の戦略策定と実行を取り上げた多様なケースをもとに、経営戦略に関する基礎的な理論および実践の方法を学習することを通して、実践の場で生きる分析能力および問題解決能力の養成を図る。

## ■ 経営分析特論

企業の財政状態や経営成績を正しく理解するために、経営分析の知識を身につけることが必要である。本授業では、財務諸表の分析を通じて、企業の収益性、安全性、生産性、成長性をいかに把握するか、その分析手法の修得を目的とする。

## ■ 人的資源管理特論

本講義では、経営資源として重要性が高まりつつあるヒトに関する望ましいマネジメントのあり方を最新の人事に関するトピックスや実際の企業事例などを取り上げ、経営学、心理学、キャリア論など学際的な見地から解説をしていく。人事担当者や管理する立場にあるリーダー人材にとって、極めて有益な講座になるものと思われる。

## ■ マーケティング特論

マーケティングは、さまざまなビジネス領域はもちろん、その活用領域は地域社会、行政機関や非営利組織へも拡張されている。現代社会が直面するマーケティング課題を自ら適切に把握し、その解決策を策定し、それを遂行できる能力の習得を目的とする。

## ■ 国際企業論特論

国際企業の戦略、組織、機能に関する最先端の研究成果を学習。国際企業で事業活動を推進する経営者・管理者に必要な洞察力を高め、ビジネス社会に貢献する女性リーダーの育成を図る。

## ■ 地域経済分析特論

地域経済の内で観光地・観光産業に焦点を当てて、それに関するデータのネット上で入手方法などを修得した上で、観光産業の経済効果や観光地・観光施設の特性などを分析することを目的とする。データ分析は基礎レベルでは、Excelを用い、回帰分析や多変量解析においては、SPSSなどのソフトウェアを用いる。

## ■ ダイバーシティ特論

企業経営におけるダイバーシティの現状と政策的課題について概説する。ジェンダー、障害者雇用、LGBTの雇用を中心に、参加者の報告を交えながら考察します。

## ■ ビジネス関連法特論

業務遂行上問題が発生した場合、どの条文に基づき、どのような内容が法的問題となるのかを発見・分析する力を培うことにより、法的責任や法的不利益などのリーガルリスクを未然に予防することを可能とするリーガルスキルを修得することをめざす。そして、中間管理者としての能力を高める。

## ■ 情報社会システム特論

情報技術のめまぐるしい進展がもたらした様々な社会システムの変容について概説したのち、とりわけ現代社会の秩序化や権力作用を媒介する多様な「メディア」に注目し、デジタルメディア社会の可能性と課題について分析・考察する。

## 関連科目(専門社会調査士)

## ■ 社会調査研究特論

新聞・雑誌記事などの質的データの分析方法(内容分析等)を習得するとともに、さまざまな質的調査法(インタビュー、参与観察、ドキュメント分析、会話分析など)の習得を目指す。

## ■ 社会統計特論

社会調査法・社会統計学の基礎を交えながら、多変量解析の主な理論を紹介し、計量的データ分析の基礎・応用力を養う。PCを利用しながら、実際にデータを分析し、理論と実践力の両方を習得する。

## ■ 調査企画特論

社会調査を自ら企画して実施し、集計・分析を行うために必要な知識・方法を習得する。調査方法の決定、仮説構成、調査票の作成、サンプリング、実査の注意点、調査データの整理の手順といった一連の方法を理解する。実際に調査データを用いて、量的・質的分析に基づく報告ペーパーの作成も行う。

# 大学院生のための 様々な制度をご用意しました！

TOPICS 1

長期履修制度

TOPICS 2

各種  
奨励金制度

TOPICS 3

リサーチ・  
アシスタント制度

TOPICS 4

学外研究資金の  
獲得支援

TOPICS

## 1 長期履修制度

[https://www.jissen.ac.jp/learning/support/index.html#anc2\\_1](https://www.jissen.ac.jp/learning/support/index.html#anc2_1)



「長期履修制度」とは、就職や育児・介護等の事情があり、大学院所定の標準修業年限で修了することが困難な社会人にも修学機会を拡大するための制度です。修士課程・博士前期課程において通常2年の修業年限を3年または4年に延長し、大学院生のライフイベントによる状況の変化に、柔軟に対応します。

### 対象

修士課程・博士前期課程に入学する者のうち、以下のいずれかに該当する者を対象とします。

- 職業を有している者（臨時雇用者及び自営業従事者を含む）
- 育児あるいは介護等の事情を有する者
- その他、研究科委員会で相当と認められた者

### 申請時期・決定

申請は出願時のみ受け付けます。出願時に申請しない場合、原則としてその後の変更は認めません。

申請可否は、合否判定とともに決定します。

### 修業年限・在学年限

修業年限：3年または4年とします。

在学可能年限：修業年限が3年の者は4年、修業年限が4年の者は5年とします。

### 履修単位数制限

1年あたりの履修単位の上限は定めません。

### 修業年限の変更／長期履修学生への変更について

#### 1 修業年限の変更を希望する場合

長期履修学生として入学後、やむを得ない理由で修業年限の変更を希望する者は、研究科委員会で認められた場合に限り、2年次進級時に修業年限変更の申請をすることができます。

#### 2 標準学生から長期履修学生への変更を希望する場合

標準学生として入学後、やむを得ない理由で長期履修学生への変更を希望する者は、研究科委員会で認められた場合に限り、2年次進級時に長期履修学生に移行することができます。この場合、修業年限は3年または4年とします。

#### 3 再入学者について

再入学者についても、研究科委員会で認められた場合に限り①、②の申請が可能です。ただし、再入学の時点および2年次以上に再入学した場合はこの変更はできません。

TOPICS

## 2 各種奨励金制度

[https://www.jissen.ac.jp/learning/support/index.html#anc3\\_1](https://www.jissen.ac.jp/learning/support/index.html#anc3_1)



大学院在学中の研究活動をサポートするため、3つの奨励金制度を導入しています。

在学中から学会に参加したり、学会誌等に論文を投稿したりするなど、研究活動を積極的に行うことは、皆さんの論文作成や進路選択にとって、たいへん役立ちます。

これらの奨励金制度を有効に活用して、充実した大学院生活を送る手助けとしてください。

### 大学院学会奨励金（対象：修士課程・博士後期課程）

学会に参加する際の交通費、宿泊費や参加費等を助成する制度です。

	種類	支給額（一律）	支給回数上限 <sup>※</sup>	
			修士・博士前期課程	博士後期課程
1	参加のみ	20,000円	年次毎に いずれか1回まで	年次毎に いずれか2回まで
2	発表あり(国内)	50,000円		
3	発表あり(海外)	100,000円		

<sup>※</sup> 修業年限を超えて在籍する者は、年次毎にいずれか1回までの申請上限とする。

<sup>※</sup> 「発表」には、ポスター発表を含む。

<sup>※</sup> オンライン開催の学会に参加した場合は、以下の取扱いとする。

発表ありの場合：参加費の有無を問わず「発表あり（国内）」の区分で支給。

参加のみの場合：参加費が有償のものに限り「参加のみ」の区分で支給。参加費が無償の場合は、対象とならない。

### 大学院論文投稿支援金（対象：修士課程・博士後期課程）

学会誌や学術誌への論文投稿にかかる費用を助成します。

### 要件

本学大学院の学生として投稿する場合に限る。

共著の場合は、筆頭著者として投稿した論文であること。

### 支給基準

論文作成・投稿経費（実費：上限50,000円／年）



作成にかかる翻訳料、英文等校閲料、または投稿料、掲載料、オープンアクセス料等別刷・抜刷代（実費：上限10,000円／年）

### 大学院博士後期課程奨励金（対象：博士後期課程）

博士後期課程に在籍する若手研究者の研究活動費全般を助成します。

<sup>※</sup> 申請者は研究計画を提出し、学内会議での審査を経て承認される必要があります。

支給額 150,000円（年額・奨学金として）





# 3 リサーチ・アシスタント制度

[https://www.jissen.ac.jp/learning/support/index.html#anc5\\_1](https://www.jissen.ac.jp/learning/support/index.html#anc5_1)



大学院博士後期課程の在学者を対象として、RA(リサーチ・アシスタント)の制度を導入します。

RAに任用されることで、本学の研究プロジェクト等に補助者として参加し、給与を得ながら、研究活動に携わることができます。

## ● RA (リサーチ・アシスタント)とは……

優秀な博士後期課程の大学院生が、大学が行う研究プロジェクト等に研究補助者として参画し、これに対する手当ての支給を受けることにより、研究遂行能力の育成や研究体制の充実を図るものです。(文部科学省の定義より)

### 要件

- 本学の大学院博士後期課程に在籍していること。(2023年4月時点)
- 本学が行う研究プロジェクト等に参加し、年度内に6か月以上、研究補助業務に携わること。
- 将来、研究者になる意欲と優れた能力を有すること。

### 待遇

- 給与 時給2,000円
- 勤務時間 週15時間かつ年間360時間を上限とする。
- 通勤交通費 原則は支給無し。(ただし長期休暇中の勤務については、所属キャンパスまでの交通費実費を支給。)
- ※その他、本学規定による。

### 手続

必要書類(採用計画書、履歴書)をもとに所属する研究科の会議で審議し決定する。  
詳細は指導教員と相談のこと。

# 4 学外研究資金の獲得支援

[https://www.jissen.ac.jp/learning/support/index.html#anc6\\_1](https://www.jissen.ac.jp/learning/support/index.html#anc6_1)



学外団体が公募する研究資金の獲得は、安定した大学院生生活や、研究活動の高度化につながります。  
本学では次のような取組みにより、学外研究資金の獲得支援を行います。

- 学外研究資金に関する情報発信の強化
- 学外研究資金の申請書類作成支援
- 日本学術振興会特別研究員の申請書類作成支援
- 学外研究資金の申請に関する相談窓口の設置(研究推進室)



2023年度入学学費等納付金は、以下一覧をご参照ください。(学費の消費税は非課税です。)

## ■ 標準修業年

【単位:円】

区分	研究科名	専攻名	課程	学費			その他の納付金 学生教育研究 災害傷害保険	入学手続時 納付金合計	後期納付金 (10月)	初年度 納付金 合計	
				入学金	授業料 (前期分)	施設設備費					
一般	文学研究科	国文学専攻	博士前期課程	230,000	350,000	45,000	2,080	627,080	395,000	1,022,080	
		美術史学専攻	博士後期課程	230,000	350,000	45,000	3,120	628,120	395,000	1,023,120	
		英文学専攻	修士課程	230,000	350,000	45,000	2,080	627,080	395,000	1,022,080	
	人間社会研究科	人間社会専攻	修士課程	115,000	350,000 <sup>[年額] (※1)</sup>	—	—	465,000	—	465,000	
			博士前期課程	230,000	350,000	45,000	2,080	627,080	395,000	1,022,080	
			博士後期課程	230,000	360,000	45,000	2,080	637,080	405,000	1,042,080	
		生活科学研究科	食物栄養学専攻	博士前期課程	230,000	360,000	45,000	3,120	638,120	405,000	1,043,120
			生活環境学専攻	修士課程	230,000	360,000	45,000	2,080	637,080	405,000	1,042,080
			研究生	115,000	360,000 <sup>[年額] (※1)</sup>	—	—	475,000	—	475,000	
	内部	文学研究科	国文学専攻	博士前期課程	50,000	350,000	45,000	2,080	447,080	395,000	842,080
			美術史学専攻	博士後期課程	50,000	350,000	45,000	3,120	448,120	395,000	843,120
			英文学専攻	修士課程	50,000	350,000	45,000	2,080	447,080	395,000	842,080
人間社会研究科		人間社会専攻	修士課程	57,500	350,000 <sup>[年額] (※1)</sup>	—	—	407,500	—	407,500	
			博士前期課程	50,000	350,000	45,000	2,080	447,080	395,000	842,080	
			博士後期課程	50,000	360,000	45,000	3,120	458,120	405,000	863,120	
		生活科学研究科	食物栄養学専攻	博士前期課程	50,000	360,000	45,000	2,080	457,080	405,000	862,080
			生活環境学専攻	修士課程	50,000	360,000	45,000	2,080	457,080	405,000	862,080
			研究生	57,500	360,000 <sup>[年額] (※1)</sup>	—	—	417,500	—	417,500	
備考				入学時1回	後期授業料は前期と同額 (※1)研究期間が6ヶ月の場合は半額	年額 90,000	入学時1回 ※修業年限により異なる				

※学生教育研究災害傷害保険の金額は、(公財)日本国際教育支援協会の保険料の見直しによっては変更となる場合があります。 ※次年度以降の学費等は経済変動にともない改定することがあります。

## ■ 長期履修(3年)

【単位:円】

区分	研究科名	専攻名	課程	学費			その他の納付金 学生教育研究 災害傷害保険	入学手続時 納付金合計	後期納付金 (10月)	初年度 納付金 合計
				入学金	授業料 (前期分)	施設設備費				
一般	文学研究科	国文学専攻	博士前期課程	230,000	230,000	30,000	3,120	493,120	260,000	753,120
		美術史学専攻	修士課程	230,000	230,000	30,000	3,120	493,120	260,000	753,120
		英文学専攻	修士課程	230,000	230,000	30,000	3,120	493,120	260,000	753,120
	生活科学研究科	食物栄養学専攻	博士前期課程	230,000	240,000	30,000	3,120	503,120	270,000	773,120
		生活環境学専攻	修士課程	230,000	240,000	30,000	3,120	503,120	270,000	773,120
		研究生	115,000	240,000 <sup>[年額] (※1)</sup>	—	—	355,000	—	355,000	
内部	文学研究科	国文学専攻	博士前期課程	50,000	230,000	30,000	3,120	313,120	260,000	573,120
		美術史学専攻	修士課程	50,000	230,000	30,000	3,120	313,120	260,000	573,120
		英文学専攻	修士課程	50,000	230,000	30,000	3,120	313,120	260,000	573,120
	人間社会研究科	人間社会専攻	修士課程	50,000	230,000	30,000	3,120	313,120	260,000	573,120
			博士前期課程	50,000	240,000	30,000	3,120	323,120	270,000	593,120
			博士後期課程	50,000	240,000	30,000	3,120	323,120	270,000	593,120
備考			入学時1回	後期授業料は前期と同額	年額 60,000	入学時1回 ※修業年限により異なる				

※学生教育研究災害傷害保険の金額は、(公財)日本国際教育支援協会の保険料の見直しによっては変更となる場合があります。 ※次年度以降の学費等は経済変動にともない改定することがあります。

## ■ 長期履修(4年)

【単位:円】

区分	研究科名	専攻名	課程	学費			その他の納付金 学生教育研究 災害傷害保険	入学手続時 納付金合計	後期納付金 (10月)	初年度 納付金 合計
				入学金	授業料 (前期分)	施設設備費				
一般	文学研究科	国文学専攻	博士前期課程	230,000	175,000	22,500	4,010	431,510	197,500	629,010
		美術史学専攻	修士課程	230,000	175,000	22,500	4,010	431,510	197,500	629,010
		英文学専攻	修士課程	230,000	175,000	22,500	4,010	431,510	197,500	629,010
	人間社会研究科	人間社会専攻	博士前期課程	230,000	180,000	22,500	4,010	436,510	202,500	639,010
			博士後期課程	230,000	180,000	22,500	4,010	436,510	202,500	639,010
			研究生	115,000	180,000 <sup>[年額] (※1)</sup>	—	—	295,000	—	295,000
内部	文学研究科	国文学専攻	博士前期課程	50,000	175,000	22,500	4,010	251,510	197,500	449,010
		美術史学専攻	修士課程	50,000	175,000	22,500	4,010	251,510	197,500	449,010
		英文学専攻	修士課程	50,000	175,000	22,500	4,010	251,510	197,500	449,010
	人間社会研究科	人間社会専攻	修士課程	50,000	175,000	22,500	4,010	251,510	197,500	449,010
			博士前期課程	50,000	180,000	22,500	4,010	256,510	202,500	459,010
			博士後期課程	50,000	180,000	22,500	4,010	256,510	202,500	459,010
備考			入学時1回	後期授業料は前期と同額	年額 45,000	入学時1回 ※修業年限により異なる				

※学生教育研究災害傷害保険の金額は、(公財)日本国際教育支援協会の保険料の見直しによっては変更となる場合があります。 ※次年度以降の学費等は経済変動にともない改定することがあります。